

元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン 『概要版』

1. 策定の背景

- 【目的】 ●人口の現状分析を行い、今後の目指すべき将来の人口を展望するとともに、「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた効果的な施策を立案する資料となる。
- 現状分析に基づく課題を把握し、今後予想される人口の変化が、地域の将来や市に与える影響の分析、考察を行い、目指すべき方向性を明らかにする。

【対象期間】

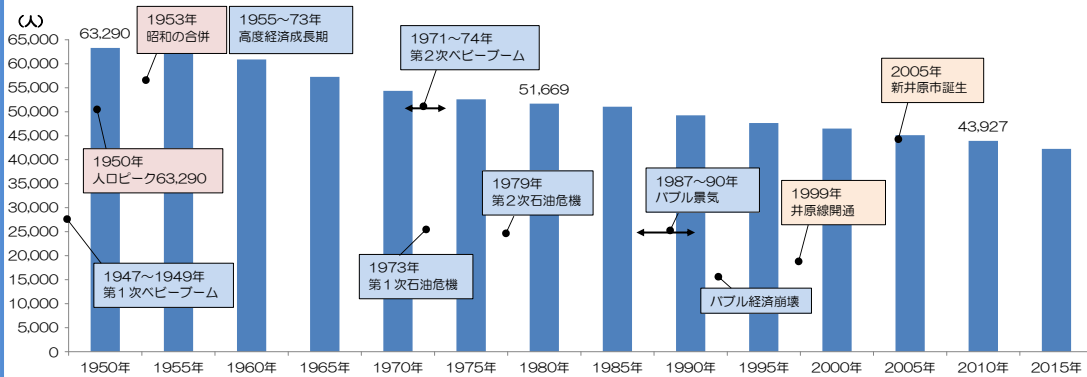
平成 72 年（2060 年）まで

2. 人口動向分析

【人口の動向】

昭和 25 年（1950 年）の 63,290 人をピークに、人口減少が続き、高度経済成長期の社会減、高度経済成長期以降は、少子高齢化による自然減が続き、人口は緩やかに減少し続けています。

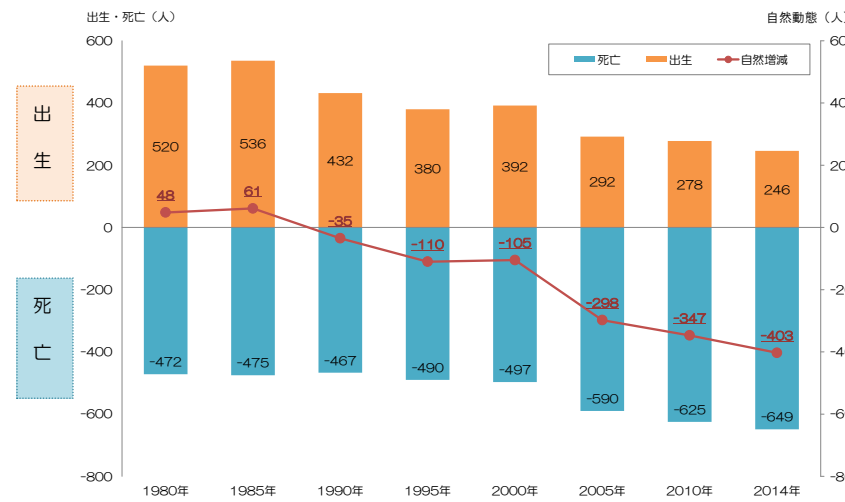
■社会情勢と本市の人口動向



【自然動態の推移】

年間の自然増減（出生数と死亡数の差）については、自然減少が増加で推移し、平成 17 年（2005 年）以降は年間 300～400 人の減少が続き、拡大傾向となっており、確実に少子高齢化が進展しています。

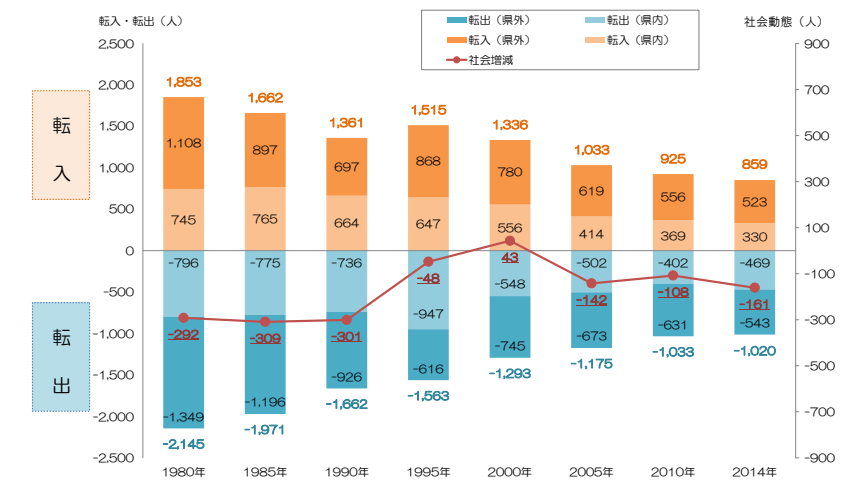
■自然動態（出生・死亡）の推移



【社会増減の分析】

社会増減（転入数と転出数の差）は、平成 12 年（2000 年）に転入超過となっていますが、それ以降は約 100～200 人程度の転出超過で推移しています。

■社会動態（転入・転出）の推移

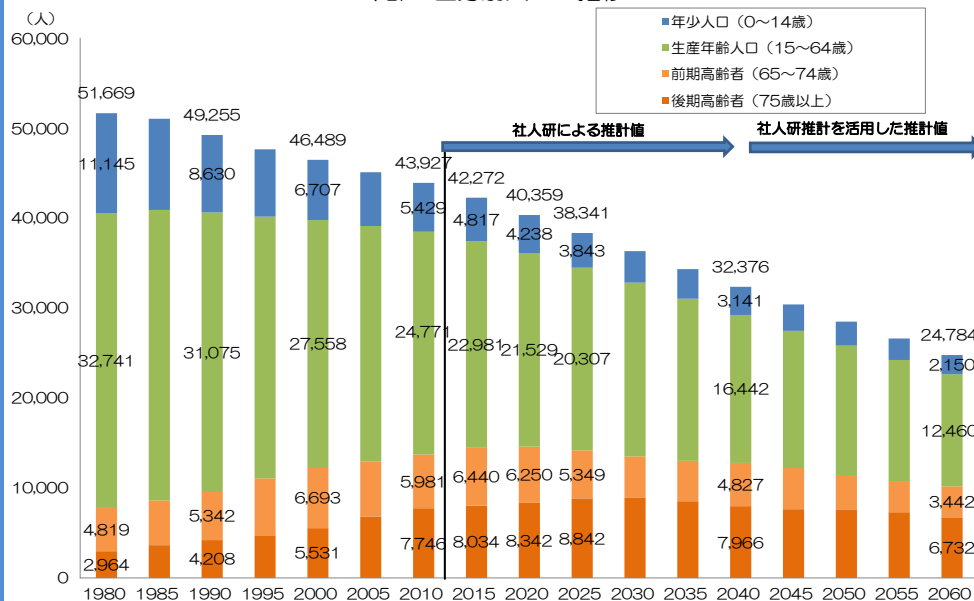


3. 将来人口の推計と分析

【社人研による総人口・年齢区分別人口の推計】

昭和 25 年（1950 年）の 63,290 人をピークに減少していますが、平成 27 年（2015 年）以降も、人口は減少を続け、平成 52 年（2040 年）には、32,376 人（2010 年人口の 73.7%に減少）に、平成 72 年（2060 年）には、24,784 人（2010 年人口の 56.4%に減少）になるものと推計されています。

■年齢3区分別人口の推移

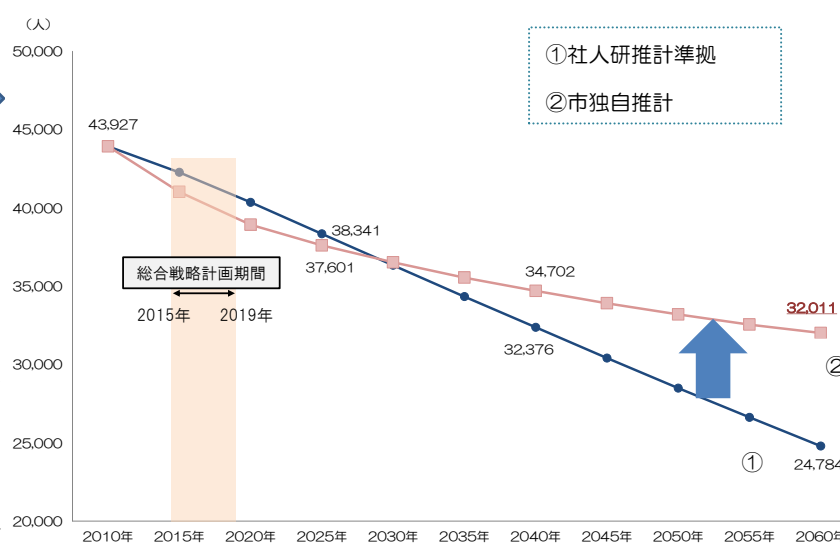


（注）社人研：国立社会保障・人口問題研究所の略称

【市独自の人口推計】

仮に合計特殊出生率が平成 52 年（2040 年）までに人口置換水準である 2.07 まで改善した場合、人口減少は一定の抑制が見込まれ、総合戦略における社会増の取組みを推進することで、平成 37 年（2025 年）以降、大幅な改善が見込まれ、平成 72 年（2060 年）での人口が 32,000 人程度となることが推計できます。

■総人口の比較



（注）人口置換水準：人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準

4. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

【生活への影響】

- 人口減少から、主に地域内での消費が主体になっている業種の販売額減少
- 地域での消費活動縮小が、その労働人口にも影響するなど、地域経済の縮小

【社会基盤等への影響】

- 人口減少により、税金及び使用料が減少し、社会基盤（道路、河川、上下水道など）の維持管理費、補修費の行政負担の増大
- 高齢者一人を支える現役世代（生産年齢人口）が減少し、現役世代にかかる社会保障費負担等の増加

5. 井原市の人口の将来展望

【目指すべき将来の方向】

- ①井原市における安定した雇用を創出する
- ②井原市への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

【人口の将来展望】

- 本市においては、4つの目指すべき将来の方向に沿った取り組みを進めていくことにより、平成 72 年（2060 年）に 32,000 人を目指すものとします。
- 年齢3区分別人口割合は、平成 27 年（2015 年）の割合を維持します。